[成果情報名] 一番茶のみ摘採する園における適正な整せん枝技術

[要約]一番茶摘採後に整せん枝作業を行わず、7月上旬に深・浅刈り更新を行った園は、一番茶摘採後に秋整枝まで放任した園と比較して、秋整枝面の充実が図られ、翌年一番茶収量が多い。

[キーワード]一番茶摘採後、深・浅刈り更新、病害虫防除、整せん枝回数
[担当]長崎県農林技術開発センター・果樹・茶研究部門　茶業研究室
[連絡先]（直通）0957-46-0033
[区分]茶
[分類]指導
[作成年度]2015 年度

[背景・ねらい]

茶収益性の低下や担い手の高齢化等により、一番茶のみの摘採園や放任園が増加している。一番茶摘採後の茶園管理が適正でない園はその後の収益性が低下し、更なる放任園増加に繋がる。そこで、一番茶摘採後の病害虫防除・整せん枝回数を削減し、秋整枝面の充実を図り、翌年一番茶収量の確保可能な更新時期・方法、防除回数を検討する。

[成果の内容・特徴]

1．秋整枝面の枝条数・枝条径は、７月上旬（7/8）に深・浅刈り更新（以下、深・浅刈り更新）を行うことで、一番茶後に整せん枝を行わず秋整枝まで放任（以下、秋整枝まで放任）と比較して、枝条数は有意に多く、枝条径は有意に細くなる（表２）。
2．秋整枝面の着葉密度は、深・浅刈り更新処理により秋整枝まで放任と比較して高くなる。（表２）
3．年間整せん枝回数は、深・浅刈り更新で３回、秋整枝まで放任において２回である（表１）。
4．年間防除回数・薬剤数は、深・浅刈り更新は秋整枝まで放任と比較して２回、４剤多い。炭疽病病葉数は深・浅刈り更新は秋整枝まで放任と比較して有意に少ない（表３）。
5．１～４までを考慮すると、７月上旬に深・浅刈り更新を行うことで、秋整枝まで放任と比較して秋整枝面の充実を図ることが可能である。
6．翌年一番茶摘芽数・生葉収量は、深・浅刈り更新を行うことで、秋整枝まで放任園と比較して多い（表４）。

[成果の活用面・留意点]

1．深刈り更新は、一番茶摘採高より-9.5cm、前年秋整枝高より-7.0cm 高さで行い、浅刈り更新は、前年秋整枝高と同じ高さで行った試験結果である。
2．一番茶後に整せん枝を行わず秋整枝まで放任すると、整せん枝が行われず茶芽が生育する期間が長いため、秋芽が過繁茂となる。その結果、秋整枝面の枝条数が少なく、枝条が太くなり、翌年一番茶の摘芽数減少と収量減を招く。
3．更新の高さは、枝条の状態に応じて、再生芽が着きやすい高さの検討が必要である。
4．定植９～10 年目「やぶきた」の被覆栽培での試験結果である。
5．試験園の年間施肥量は、10a 当り窒素 50.0kg：リン酸 24.0kg：カリ 24.0kg である。

[具体的データ]

表１．整せん枝時期・高さ・回数（2014 年）

一番茶摘採後の整せん枝	一番茶				二番茶				せん枝		秋整枝		年間整せん枝回数
	摘採		整枝		摘採		整枝						
	月/日	高さmm	月/日	高さmm	月/日	高さmm	月/日	高さmm	月/日	高さmm	月/日	高さmm	
7月上旬深刈り更新	5/4	870	―	―	―	―	―	―	7/8	775	10/1	820	3
7月上旬浅刈り更新	5/4	870	―	―	―	―	―	―	7/8	845	10/1	900	3
秋整枝まで放任	5/4	870	―	―	―	―	―	―	―	―	10/1	950	2
参考（二番茶摘採）	5/4	870	5/19	870	6/20	890	6/30	890	―	―	10/1	950	5

注１）整せん枝の高さは、乗用型摘採機の刈刃高さ(mm)である。

表２．一番茶摘採後の整せん枝と秋整枝面調査結果（2014 年）

一番茶摘採後の整せん枝	秋整枝前の最終整せん枝		秋整枝面調査				
	月/日・作業	高さ(mm)	枝条数（/400cm2）		枝条径(mm)		着葉密度
7月上旬深刈り更新	7/8・深刈り	775	31±1.2	a	1.6±0.3	c	やや密
7月上旬浅刈り更新	7/8・浅刈り	845	31±2.0	a	1.6±0.3	c	密
秋整枝まで放任	5/4・一番茶摘採	870	24±3.6	b	2.3±0.4	a	粗
参考（二番茶摘採）	6/30・二番茶後整枝	890	32±1.0	a	1.9±0.3	b	中

注１）　秋整枝面の枝条数：20×20cm 枠内の整枝枝と整枝面下－２cm の頂芽数を計測、ｎ＝３。

注２）　秋整枝面の枝条径：秋整枝面の整枝枝の直径を計測、ｎ＝30。

注３）　着葉密度：密、やや密、中、やや粗、粗の５段階の達観で評価。

注４）　異なる英文字間に有意差あり（tukey-kramer の方法、p<0.05）以下同じ。

表３．年間防除実績と炭疽病葉数（2014 年）

一番茶摘採後の整せん枝	年間防除実績							炭疽病	
	4/10	6/9	7/23	8/7	9/22	回数	薬剤数	病葉数(/m^2)	
7月上旬深刈り更新	ﾀﾞﾆｹﾞｯﾀｰFL	―	―	ｲﾝﾀﾞｰFL ｶｽｹｰﾄﾞ乳剤	ﾌｪﾆｯｸｽFL ﾀﾞﾆｻﾗﾊﾞFL	3	5	37±6	c
7月上旬浅刈り更新	ﾀﾞﾆｹﾞｯﾀｰFL	―	―	ｲﾝﾀﾞｰFL ｶｽｹｰﾄﾞ乳剤	ﾌｪﾆｯｸｽFL ﾀﾞﾆｻﾗﾊﾞFL	3	5	59±28	c
秋整枝まで放任	ﾀﾞﾆｹﾞｯﾀｰFL	―	―	―	―	1	1	389±59	a
参考（二番茶摘採）	ﾀﾞﾆｹﾞｯﾀｰFL	ﾀﾞｺﾆｰﾙ ｶｽｹｰﾄﾞ乳剤	ｱﾐｽﾀｰ20 ﾊﾁﾊﾁ乳剤	ｲﾝﾀﾞｰFL ｶｽｹｰﾄﾞ乳剤	ﾌｪﾆｯｸｽFL ﾀﾞﾆｻﾗﾊﾞFL	5	9	163±17	b

注１）炭疽病病葉数：秋整枝面での 30×30cm 枠内の炭疽病病斑数を計測し、m^2 に換算した。ｎ＝３

表４．翌年一番茶収量・摘芽調査結果（2015 年）

一番茶摘採後の整せん枝	翌年一番茶収量（kg/10a）	翌年一番茶の摘芽調査結果				
		摘芽数（/400cm^2）	出開度(%)	百芽重(g)	摘芽長(cm)	摘芽葉数
7月上旬深刈り更新	334	55	61	37	4.0	2.8
7月上旬浅刈り更新	354	55	56	44	3.7	2.8
秋整枝まで放任	266	45	58	46	4.2	3.7
参考（二番茶摘採）	318	46	71	47	4.3	3.6

[その他]

研究課題名：　茶優良品種の育成期間における栽培方法の確立

予 算 区 分：県単

研 究 期 間：2014～2015 年度

研究担当者：池下一豊